

平成30年度第3回 江別市子ども・子育て会議要旨

日 時：平成30年11月13日（火）10時～

場 所：江別市民会館 32号室

出席者：江別市子ども・子育て会議委員12名

赤川和子委員、石塚誠之委員、内館佳子委員、木村吉憲委員、久保靖代委員、
鷹架諭委員、高本亮委員、土田梨乃委員、鶴田百恵委員、林大輔委員、
藤野友紀委員、松本直也委員

江別市（事務局）8名

佐藤健康福祉部長、西田子育て支援室長、四條子育て支援課長、
中村子ども育成課長、伊藤子ども育成課参事、尾崎子育て支援課主査、
野本子ども育成課主査、出水子育て支援課臨時職員

傍聴者：1名

1 開会

○四條子育て支援課長

開会あいさつ。委員14名中12名の参加報告。

2 議事

○藤野会長

当会議の開催に際し、傍聴者の入室を許可したいと思います。事務局は、傍聴者を会場に案内してください。

——傍聴者1名入室——

○藤野会長

次第2議事の（1）協議事項「第2期江別市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について」事務局から説明をお願いします。

○尾崎子育て支援課主査

「第2期江別市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について」説明します。資料1-1「第2期江別市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の概要」をご覧ください。

「1. 調査目的」は、第1期江別市子ども・子育て支援事業計画が2019年度で終了

となることから、2020から2024年度を計画期間とする第2期江別市子ども・子育て支援事業計画策定の基礎資料とするために実施します。

「2. 調査対象」は、江別地区、野幌地区及び大麻地区別と年齢別に無作為抽出を行い、就学前子どもの保護者1,500世帯と小学生の保護者1,500世帯を対象とします。

「3. 調査内容」、「4. 調査方法」、「5. 調査票郵送」及び「6. 調査票締切」は、記載のとおりですのでご確認ください。

回収を終えた調査票は、委託業者が入力作業し、1月末までに単純集計を行い、2月末までにクロス集計結果の調査報告書（案）が納品される予定です。

次に資料1-2「ニーズ調査項目一覧」をご覧ください。

今回のニーズ調査は、第1期江別市子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査票とほぼ同じ内容となります。

前回のニーズ調査票と大きく異なる部分は、就学前子ども用につきましては、0歳児の保育ニーズ把握のために「育児休業や短時間勤務制度など、子育てと職場の両立支援制度について」を追加し、2019年10月から保育料等が無償化される予定ですので、就労意欲と教育・保育ニーズの変化を把握するために「幼児教育・保育の無償化に関して」も追加しています。小学生用につきましては、問12は前回のニーズ調査では、「3年生以下のお子さんの放課後の過ごし方について」でしたが、今回のニーズ調査では、「お子さんの放課後の過ごし方について」に修正しました。

今回のニーズ調査のために国から示された追加の設問は、就学前子ども用の問16-1「幼稚園の利用希望」についてです。

就学前子ども用の問10と問30から問36、小学生用の問7と問16から問22につきましては、前回ニーズ調査と比較するための設問です。

○藤野会長

ただいまの説明について質疑をお願いします。

○藤野会長

就学前子ども用の問2（年齢・生年月日）についてです。この調査は全学年から抽出し、今年秋に実施ですので、保育園・幼稚園に在籍中の年長児は、今年度中に6歳（年長）になっていきます。そうすると、「7. 平成24年4月2日生まれ～平成25年4月1日生まれ」を追加しないと、今の年長さんが○をつける場所がないのではないのでしょうか。

○四條子育て支援課長

そのとおりです。追加します。

○木村委員

就学前子ども用の「お子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況」の問15-1及び問15-2については、教育と保育を一緒にされている雰囲気があります。実態は、教育機関として14時まで利用し、その後は延長する形で預かり保育として利用しており、教育の時間と保育の時間をひとまとめにして利用時間をきいています。設問の目的としては、教育・保育事業の利用状況の把握となっていますので、分けるべきではないでしょうか。保育と一緒にされることが気がかりです。

○四條子育て支援課長

この設問は資料1-2の項目のとおり、国の必須項目となっています。ニーズ調査の結果を国に報告する際に、調査項目を変更すると報告が困難となる可能性があります。国の必須項目は、各市町村からデータを集めて、国の政策に反映させるものです。木村委員のご意見は理解しますが、変更の難しい項目ということでご理解願います。

○赤川委員

市独自の設問については、変える余地や付け加える余地があると考えてよろしいでしょうか。

○四條子育て支援課長

そのとおりです。

○赤川委員

無償化は国の施策として、働く人口を増やすことが前提です。子どもたちがたくさんやってくるのは良いが、幼稚園教諭や保育士など労働者の処遇改善をきちんと行わなければ、施設側の人手が足りず対応しきれない事態が発生します。処遇改善も国から費用が出ていますが、全部が保育士さんたちに還元されていないと現場の声が上がっています。就学前子ども用について、幼児教育及び保育の無償化に関しての意見を入れていただきたいです。今の設問は「こうなったら利用しますか。働きますか。」のようなものばかりです。現場を見ている保護者からの全般的なご意見を汲み取る設問を加えていただきたいです。「幼児教育・保育の無償化に関するご意見がありましたらお願いします」などです。

○四條子育て支援課長

就学前子ども用の問29-6の後ろに、自由記載欄という形で幼児教育・保育の無償化に関する保護者の方のご意見をいただく形でよろしいでしょうか。

○赤川委員

ありがとうございます。そのようにぜひお願いします。

○四條子育て支援課長

幼児教育・保育の無償化に関して、この設問を加えた意図を説明します。ここに記載している内容は、国が現在示している内容の全てだとお考えください。実施方法については、検討が進められている最中で、明らかになるのは、12月の国の予算案の段階かと考えられます。

今回のニーズ調査の趣旨は、「幼児教育・保育の量の見込みと提供体制」及び「子育て支援施策の量の見込みと提供体制」を測る目的です。具体的な内容が伝わらない中、その年代のお子さんを抱えている保護者の方に情報提供も行い、無償化をご理解いただいたうえで、考え方の変化を把握することにより、ニーズ量にどれだけ影響を与えるのかという測定を試みるため設けました。

赤川委員の言うとおおり、視点としては量の見込みと提供体制の設問となりましたが、無償化全体に係るご意見を書いていただく欄を設けたいと思います。

○藤野会長

調査の目的についてよく理解できました。そのうえで提案ですが、就学前子ども用の問29-6について、20、21ページの幼児教育・保育の無償化の説明を読んでいただいて理解したうえで、知る前に答えた問16と知った後に答えた問29-6でどう変わった

のかということ把握したいという目的かと思えます。しかし、問29-6の設問文章がややわかりづらいと思えます。「関連設問：問16」と書かれていますが、「関連設問とはどういう意味だろう」と考える方もいると思えます。「これをお読みになって、問16の回答と比べながら問26-9をお答えください」など、誰が読んでもわかる表現にしたほうが伝わりやすいと思われます。

○四條子育て支援課長

表現を改めまして、「お読みになった後で、無償化された場合、問16でお答えになった回答から変化があるかどうか」といった表現を検討して修正したいと思います。

○藤野会長

「幼児教育・保育の無償化について知っていたかどうか」を確認する必要はないでしょうか。例えば、このアンケートに答える前に無償化について知っていた場合、問16を知っていた前提で書かれ、問29も同様の回答内容となります。知らなかった場合に、問16と問29の回答内容が変わる可能性がありますので、幼児教育・保育の無償化の説明の前などに、スクリーニングが必要ではないでしょうか。

○四條子育て支援課長

就学前子ども用の問29の前に「知っていましたか」という形で入れたいと思えます。

○土田委員

資料1-1の調査対象について、地区別・年齢別無作為抽出ということで、地区別で抽出する際もある程度、平均的に江別の大麻地区といったように抽出されますか。

○尾崎子育て支援課主査

江別地区、野幌地区及び大麻地区の地区別で、かつ、年齢別にまんべんなく抽出する形をとります。

○土田委員

集計する際も、地区別に集計結果が上がってきますか。

○尾崎子育て支援課主査

アンケートの一番最初の問いに、お住まいについて町名を記入していただく欄があり、ここで地区別に集計することになります。

○土田委員

江別に住んでいる方々のうち、子育て支援センターすくすくを利用する大麻地区の方が少ないように聞こえてきます。江別地区寄りに子育ての拠点があるように感じていました。今回のアンケートで大麻地区の方々がどのように感じているかわかれば良いなと思い、質問しました。

○藤野会長

小学生用の問15の選択肢ウに記載のある認可外保育施設は、小学生でも使えるのでしょうか。併せて、問14-1の選択肢オに「病児・病後児の保育を利用した」とあり、問14-2に「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」とあります。これらについて、「具体的に何を指しているのか」「小学生の利用は可能なのか」について確認したいです。

○四條子育て支援課長

小学生用の問15の選択肢ウですが、これは国の表現をそのまま使用しており、わかりにくく申し訳ありませんでした。宿泊を伴うサービスは、緊急サポートネットワークがあります。江別市として行っている事業であり、こちらが選択肢ウに該当します。

認可外保育施設という表現では、イメージしづらいのでわかり易い表現に修正します。

○中村子ども育成課長

病児・病後児の保育施設は、国の制度に沿って運営を行っています。市内には1か所あり、小学生も対象です。

○木村委員

今回の調査内容は、江別市として財政的な対策をしようと考えたうえでこのような無償化の項目を作成したのでしょうか。

○四條子育て支援課長

現時点では、国の制度設計が明らかになっていないため、情報不足で悩んでいるところですが。無償化がどのような影響を与えるかを測定することにより、第2期江別市子ども・子育て支援事業計画策定後に現実と計画がかい離してしまうことを防ぐことが目的です。子ども・子育て支援事業計画は、市の子ども・子育て支援施策の柱となる計画ですので、保育と教育の量は、できるだけ正確に把握するよう努めたいと考えます。

宅地造成も進んでいますので、子どもの数が増えることも予想されます。現在考えている教育・保育施設及び放課後児童クラブといった保護者からのニーズが高いものは、この調査結果を受けてどのように進めていくのかを考える基礎資料とし、今後に取り組みにつなげて行きます。

○藤野会長

概ね意見が出尽くしたようです。

次第2議事の(2)報告事項①「江別市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について」事務局から説明をお願いします。

○尾崎子育て支援課主査

「江別市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について」説明します。

当該計画は、子ども・子育て支援法第61条に基づく江別市子ども・子育て支援事業計画(えべつ・安心子育てプラン)です。

このプランは、当市が展開する様々な子育て関連施策の充実を図り、子育て環境を整備することにより当市の子どもが健やかに育ち、親が安心して子どもを産み育て、就業と子育ての両立ができる社会の実現のため5か年の基本計画としてまとめたものです。計画年度は、平成27年度から平成31年度の5年間となっています。

「2.計画の位置づけ」及び「3.基本目標」は、記載のとおりですのでご確認ください。

「4.プランにおける量の見込みと提供体制の状況」は、大きく分けて2つあります。1つ目が「幼児期の教育・保育の提供体制等の状況」、2つ目が「地域子ども・子育て支援事業の提供体制等の状況」となります。

(1)「幼児期の教育・保育の提供体制等の状況」の進捗についてですが、平成29年度は、前年度と比較して、保育認定の2号及び3号の利用定員が129人の増加ですが、提供体制との比較では、2号認定及び3号認定0歳児で不足している状況にあります。

実績との比較では、2号認定に関しましては、利用定員744人に対し実際の入園児童数が684人となっています。同じく3号認定0歳児は、利用定員134人に対して実際の入園児童数が143人、3号認定1・2歳児は、利用定員471人に対して入園児童数が506人となっています。

保育ニーズの増加を踏まえ、平成29年度の間見直しにより量の見込みと提供体制を見直したところであり、引き続きプランとの整合性を図りつつ、待機児童の状況を把握しながら提供体制の確保に努めます。

(2) 地域子ども・子育て支援事業の提供体制等の状況です。

①利用者支援事業ですが、子育てひろば「ぼこあぼこ」及び市役所子育て支援室に専任の職員2名を配置し、子育てサービスや教育・保育施設の利用相談等、様々な相談に対応しています。概ね充足していることから、平成29年度の間見直しにおいて現状を維持していくこととしています。

②地域子育て支援拠点事業ですが、公設・民間合わせて8か所の子育て支援センターを設置しています。その中で親子の交流、遊びの場の提供、子育て相談及び講習会等の事業を行っています。利用者は、前年度から微減となったものの、プランと比較しますと3,169人の増加となっています。

③妊婦健康診査ですが、妊婦健診の数で対象者は632人です。提供体制として利用回数は7,634回となり、前年度と比較して利用者と利用回数は微減となりましたが、平均12.1回の利用で前年度より1人当たりの受診回数は増加しています。

④乳児家庭全戸訪問事業ですが、「こんにちは赤ちゃん事業」のことです。生後4か月までの乳児の世帯と1歳未満のお子さんのいる転入世帯を訪問するものです。こちらは、子どもが生まれた世帯と1歳未満の子どもがいる転入世帯が増加したことにより、平成28年度に引き続き、平成29年度もプランを上回っています。

⑤養育支援訪問事業ですが、養育に不安がある家庭に対して支援を行うものです。実績は212人で、ほぼプランどおりです。前年度から増加しています。

⑥子育て短期支援事業（ショートステイ事業）ですが、仕事や病気など家庭の事情によりお子さんを短期的に施設でお預かりする事業です。平成29年度の利用は11日で、前年度からは減少、またプランと比較しても減少しています。

⑦ファミリー・サポート・センター事業ですが、平成29年度の実績は週当たり23人です。前年度と比較しますと実績は減少しており、プランと比較しても減少しています。

⑧一時預かり事業ですが、幼稚園は、前年度と比較して増加しており、100,521人となっています。プランとの比較では33,561人の増加となっています。

幼稚園以外も、前年度と比較して増加しており、9,874人となっています。プランとの比較でも1,122人の増加となっています。

⑨延長保育事業ですが、前年度と比較して増加しており、690人となっています。プランとの比較では56人の増加となっています。

一時預かり事業及び延長保育事業は、女性の就業率向上や保護者ニーズの高まりなどにより伸びているものと考えています。

⑩病児・病後児保育事業ですが、前年度と比較して増加しており、1,708人となっ

ています。プランとの比較では676人の増加となっています。インフルエンザの流行などにより年度ごとの実績にばらつきがありますが、プランを超えて利用されていることから、利用実態の把握等を行い、今後の事業の在り方につきまして検討していきます。

①放課後児童クラブですが、平成28年度の提供体制706人に対しまして、平成29年度の利用定員は、716人です。前年度と比較して利用定員が10人増加となっています。放課後児童クラブは、プランと比較して実績が超過していますが、引き続き保育ニーズが高いため、ニーズの状況を把握しながら提供体制の整備を進めていく必要があると考えています。

「5.まとめと今後の展開」は、平成29年度に中間見直しを行い、一部施策・事業等の量の見込みと提供体制を見直しました。

今後においては、見直し後のプランと整合性を図りつつ、社会情勢の変化等に柔軟に対応しながら、子育てに関する施策・事業等を展開していきます。

平成30年度は、第2期江別市子ども・子育て支援事業計画策定に係るアンケート調査を国の基本指針及び手引きに基づき行います。

最後に、関連する主な事業ですが、別紙としてプラン以外の子ども・子育てに関する主な事業を添付していますので、後ほどご参照願います。以上です。

○藤野会長

ただいまの説明について質疑をお願いします。

○木村委員

「実施施設の拡大等を検討して」とありますが、実施施設だけでなく、保育士バンクの登録など、人的確保を目的とした施策もしていただきたいです。

○中村子ども育成課長

施設だけ増やしても人の手当てができないと質の確保が難しいため、広報えべつにおいても、これまで保育士等の人材バンクを紹介し、幼稚園も含めてPRしています。

○土田委員

地域子育て支援拠点事業は、「公設・民間合わせて8か所の子育て支援センター」とありますが、この中に「ぽこあぽこ」も含まれますか。

○尾崎子育て支援課主査

含まれています。

○土田委員

実際に「ぽこあぽこ」の施設の中に、アンケート調査の結果が貼り出されていました。江別市民よりも札幌市民の利用者の方が多いという結果でした。江別市の子ども達が遊んだり、子育ての拠点として使う場所を、市外の方が利用することで、江別市の方々が利用できないといった状況のように感じられて気がかりです。特に週末などは、そういった状況が多くなると個人的に感じています。

今後、利用状況を把握する際には、市外からの利用傾向の把握などをして、江別市民が多く利用できるようにした方が、子育て支援施設として望ましいのではないのでしょうか。江別市としては、江別市外からの利用者から料金をもらうなど検討する予定はないでしょうか。

○伊藤子ども育成課参事

「ぽこあぽこ」の場合は、特に休日に、市外からの利用者がとても多くなっていて、江別市民の倍以上の方々を利用されているのが現状です。ただし、「ぽこあぽこ」は、子育て支援センターとして「親子が集って遊べる場」という大切な役割を担っていますが、それと同時に当市の子育てをPRする場、または、当市の広告塔としての役割もあります。

交流人口を増やすという意味では、「ぽこあぽこ」がある当市へ市外の方も遊びに来ますので、市外の方を招かないという考え方は難しいと思います。

市内の方にとってみると「せっかく来たのに市外の方がいるから遊べない」というご意見もアンケートの中にありますが、反対の意見として「江別市民も札幌市の施設を利用して遊んでいるので、同じように交流してもよいのではないか」という意見もあります。

市内と市外の利用者に差をつけることに関しましては、講演会及び講習会への参加については江別市民のみという優先の形をとっています。今のところ、利用料を市外の方からいただくということは、先ほど述べました理由から考えていません。

○鷹架委員

「ぽこあぽこ」と類似するような施設を、これから江別市内で展開する予定はありますか。

○西田子育て支援室長

「ぽこあぽこ」は、大型遊具を備えた全天候型でいつでも元気に遊べる施設として開設しました。類似する施設の必要性は感じますが、もう一つ展開するプランは現状ありません。維持費がかなりかかっていることが大きな要因の一つです。

江別市内には、子育て支援センターが市内に8か所あります。これらを活用し、子どもがいつでも遊べるようなプラン展開を模索しているところです。

○藤野会長

概ね意見が出尽くしたようです。

次の次第2議事の(2)報告事項②「江別市子どもの生活実態調査の単純集計結果について」事務局から説明をお願いします。

○尾崎子育て支援課主査

「江別市子どもの生活実態調査の単純集計結果について」報告します。

「1. 調査目的」、「2. 調査方法」、「3. 調査票の配付・回収数」及び「4. 調査票郵送・配付日」は、記載のとおりですのでご確認ください。

「5. 調査票締切・回収日」は、郵送での回収締切は9月7日までとじていましたが、9月6日に震災があり回収率が低かったことから、郵送にて配付した方につきましては、9月12日に「江別市子どもの生活実態調査」のお礼と回答督促を兼ねたはがきを送付し、郵送締切を9月21日に延長し、回収率向上を図りました。各学校からの回収日も同じく9月10日から9月18日に延長しました。

次に資料3-2「子どもの生活実態調査単純集計結果(保護者用)」と資料3-3「子どもの生活実態調査単純集計結果(子ども用)」について説明します。

一部ではありますが、回答状況について説明します。

資料3-2「子どもの生活実態調査(保護者票)」の「過去1年間にお子さんを病院や歯

医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありますか」の設問です。回答者のうち、「あった」と回答した人が19.3%、実数では2,523人のうち487人が「あった」と回答しています。「受診させなかった理由は、お金がなかった」と回答した人が34.5%、実数では487人のうち168人になります。

次に「過去1年間に、経済的な理由で、以下のようなことがありましたか」の設問です。回答者のうち、「ときどきあった」と「よくあった」の合計が「家族が必要とする食料を買えなかった」が3.7%、実数では2,523人のうち92人になります。「冬に暖房が使えなかった」が2.1%、実数では2,523人のうち52人になります。

資料3-3「子どもの生活実態調査（子ども票）」の「以下のものについて、あなたが自分で使うことができるものがありますか」の設問中の「2足以上のサイズの合った靴」の設問です。回答者のうち、「ない」と回答した人が8.7%、実数では1,368人のうち120人になります。

次に「アルバイトをする理由について、以下の理由はどの程度あてはまりますか」の設問です。回答者のうち、「とてもあてはまる」と「まああてはまる」の合計のうち「家族を支えるため」が26.3%、実数では80人のうち21人になります。「経済的には、あなたの家の暮らしは、次のどれにあたると思いますか」の設問は、「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計が20.1%、実数では414人のうち83人になります。

今説明した内容につきましては、アンケートのほんの一部ですが、保護者の収入状況等とクロス集計を行い、これから本市の状況を分析していきます。

○藤野会長

ただいまの説明について質疑をお願いします。

○四條子育て支援課長

今回は、アンケート結果の単純集計で、「このような回答数でありました」という報告です。今後は、属性や年収といった様々な項目でクロス集計を行うことにより、最終的な結果としてまとめる予定です。その際には、改めて子ども・子育て会議に報告します。

○林副会長

子ども用の「自己肯定感に関して」の設問です。道の調査においても自己肯定感の設問があり、低い結果が出ていましたが、今回の江別市の調査よりも高かったです。江別市の自己肯定感の結果があまりに低く驚きました。今回の調査結果は、高校生も含まれているためかもしれませんが、設問内容に問題はありませんでしたか。

○四條子育て支援課長

設問に関しては、特に誘導的なものはありません。高校生が含まれたことによる影響についても、今後の分析の中で精査して行きます。結果報告においても、様々な調査結果との比較ができる報告にしていきたいと思います。

○藤野会長

概ね意見が出尽くしたようです。

次に次第3「その他」について事務局から何かありますか。

○四條子育て支援課長

本日、ニーズ調査の調査票についてご意見いただきました内容は、大幅な変更を要する

ご意見ではありませんでしたので、一部修正したものを委員の皆様にもメールでお届けし、その後、送付準備を開始したいと考えています。

次回の会議では、ニーズ調査の結果や、子どもの生活実態調査のクロス集計結果の報告を予定しています。年明け1月又は2月に日程調整のうえ、開催を考えています。開催が近くなりましたら、ご案内しますのでよろしくお願ひします。

○藤野会長

ただいまの説明について委員の方から質疑がありましたらお願ひします。

(なし)

意見等がありませんので、本会議で予定している事項についてはすべて終了しました。

以上で平成30年度第3回子ども・子育て会議を終了します。